

建築衛生部

池 田 耕 一

Department of Architectural Hygiene and Housing

Koichi IKEDA

20世紀は、いろいろな意味で、ものづくりと開発の技術が完成した世紀であったように思う。即ち、新製品の開発、新発明、新世界の開拓などである。このため、19世紀には、全くの夢、絵空事と考えられていた人類の永年の願望の多くが実現した。実現されずに残っていることと言ったら、タイムマシンと不老不死の薬の開発くらいしかないと言っていいほどである。即ち人類は20世紀に開発されたさまざまなものづくり・開発技術の恩恵によりほとんどのモノを手に入れられるようになったと言える。まさに、技術の勝利とも言える。

しかしながら、ものづくり技術の繁栄は、同時に、経済で言えば消費者より生産者、政治で言えば国民より国家、医療で言えば患者より医師などの医療を施す者の優位をより鮮明にする結果となり、モノづくりの流れの上流に立つ優位な者がその下流の者を支配すると言った風潮が蔓延したともいえる。

20世紀の末から今世紀にかけては、それらの秩序の逆転がみられ始めている。即ち、いい加減な生産・販売における経済活動をしていれば、BSE問題にみられるように消費者のボイコットに会うし、いい加減な政治により政権が交代・転覆・崩壊などの危機にさらされたケースは枚挙のいとまがないし、誤診、医療ミスを犯した医師や医療機関は、社会的に葬り去られる世の中となってきた。

このように、21世紀は、民主性・合理性がより強く要求されると同時に、モノ中心から人中心へと研究が変貌する世紀であり、これはまさに旧公衆衛生院の歩んできた道であり、公衆衛生研究の重要性がさらに強まる時代が来たと言える。その意味において、我が建築衛生部は、住宅やオフィスの住まい手の立場に立った居住環境と健康問題の追求に邁進して行きたいと考えている。